

## 平成30年度 部局自己評価報告書 (28：学際科学フロンティア研究所)

**II 特筆すべき取組 / 全学の第3期中期目標・中期計画への取組****【平成28年度取組】****1. 先端的学際研究の推進と学内学際研究発掘**〔中期計画番号22,25〕

先端的学際研究を推進する学際研究促進プログラム(所内公募)1件、学内において異分野融合学際研究を推進するための学際研究支援プログラム7件(本所外の学内公募)、挑戦的な異分野融合の萌芽的学際研究を学内から発掘するための領域創成研究プログラム20件(本所を含む学内公募)を実施した。これらの成果として本所全体で平成28年に延べ245報(内、新領域創成研究部若手教員は211報)の論文、12報の著書を発表した。(所内予算による継続実施)

**2. 優秀な若手研究者を国際公募によって採用し、その育成を支援**〔中期計画番号28〕

国際公募を実施し、募集人数に対して24倍の応募があり、助教10名を採用した。平成29年4月1日現在の新領域創成研究部若手教員は准教授2名、助教52名である。これらの若手教員には研究費、研究スペース、海外派遣等の支援を行った。平成28年度に3名の助教が文部科学大臣表彰若手科学者賞の受賞が内定した(受賞は平成29年度)。

平成28年度に新領域創成研究部助教が、本学情報科学研究科准教授、薬学研究科助教(いずれも承継職員)、男女共同参画推進センター特任講師に昇任、異動した他、千葉大学、三重大学のそれぞれ助教として転出した。

北海道大学、名古屋大学と共同で実施している「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業—連携型博士研究人材総合育成システムの構築」の育成対象者4名を採択し、3大学連携の自立的かつ国際的に活躍しうる人材育成を開始した。

**3. 異分野融合研究を目指す若手研究者の海外共同研究及び海外研究集会への派遣**〔中期計画番号21〕

本制度によって新領域創成研究部所属の若手教員13名と先端学際基幹研究部所属の教育研究支援者1名、学振PD1名、公募研究代表教員1名の計16名を米国、ドイツ、スイス、フランス、オーストラリア等で開催された国際会議へ、また、新領域創成研究部所属の若手教員2名を米国アルゴンヌ国立研究所およびミネソタ大学との共同研究に派遣した。(所内予算による継続運用)

**4. 学際高等研究教育院との連携(養賢プロジェクト)**〔中期計画番号4〕

異分野融合研究を目指す本所若手研究者が、同じく異分野融合の新研究分野の世界トップレベル若手研究者の養成を目指す学際高等研究教育院の院生らと合同で開催する「全領域合同研究交流会」を平成28年度に8回、ジョイントワークショップ1回を実施した。本交流会およびワークショップは、本所新領域創成研究部教員と研究教育院生がそれぞれの研究発表と討議を通じて、新たな新研究領域の創成とより多角的かつグローバルな視野をもった研究者の養成に資することを目的としている。

**5. 若手研究者が企画・運営する多様な研究会・セミナーの実施**〔中期計画番号36〕

「知のフォーラム Junior Research Program」において新領域創成研究部助教のオーガナイズ

で、「Interdisciplinary Approach to the Protection of Human Rights」国際ワークショップを開催した。本所と工学研究科都市・建築学専攻および文学研究科と共催で、東北大学が所有する学術標本の新たな展示手法の提案「先史のかたち一連鎖する土器群めぐり」および関連する講演会「先史のメディア論」、「ムカシのミライ／プロセス考古学×ポストプロセス考古学」等を含むセミナー、研究会 14 件を開催し、研究内容を広く一般に発信、還元した。（なお、上記に関連した東北大学考古資料展示は、日本空間デザイン賞 2017 に入選した。）

## 【平成 29 年度取組】

**1. 先端的学際研究の推進と学内学際研究発掘**〔中期計画番号 22, 25〕

学際研究促進プログラム（所内公募）1 件、学際研究支援プログラム 6 件（本所外の学内公募）、領域創成研究プログラム 20 件（本所を含む学内公募）を実施した。これらの成果として本所全体で平成 29 年に延べ 239 報（内、新領域創成研究部若手教員は 192 報）の論文、10 報の著書を発表した。（所内予算による継続実施）

**2. 優秀な若手研究者を国際公募によって採用し、その育成を支援**〔中期計画番号 28〕

国際公募を実施し、募集人数に対して 27 倍の応募があり、助教 9 名を採用した。平成 30 年 4 月 1 日現在の新領域創成研究部若手教員は准教授 2 名、助教 46 名である。これらの若手教員には研究費、研究スペース、海外派遣等の支援を行っている。また異分野の研究交流のため、若手研究者が合宿形式で研究討論するための若手研究者学際融合領域研究会（FRIS Retreat）を開催した。平成 29 年度に 1 名の助教が文部科学大臣表彰若手科学者賞の受賞が内定した（受賞は平成 30 年度）。

平成 29 年度に新領域創成研究部助教が、スマート・エイジング学際重点研究センター准教授に昇任した他、山形大学准教授、天津大学准教授（中国）、法政大学准教授、九州大学講師、北里大学講師、広島大学助教、京都大学助教、物質・材料研究機構研究員等、合計 10 名が新たなポジションを得て転出した。

北海道大学、名古屋大学と共同で実施している「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業—連携型博士研究人材総合育成システムの構築」の育成対象者 4 名を採択し、3 大学連携の自立的かつ国際的に活躍しうる人材育成を開始した。

**3. 異分野融合研究を目指す若手研究者の海外共同研究及び海外研究集会への派遣**〔中期計画番号 21〕

本制度によって新領域創成研究部所属の若手教員 13 名を米国、フランス、イタリア、シンガポール等で開催された国際会議へ、また新領域創成研究部所属の若手教員 2 名を米国 Yale 大学、フランスおよびドイツの研究機関との共同研究に派遣した。（所内予算による継続運用（一部外部資金を含む））

**4. 学際高等研究教育院との連携（養賢プロジェクト）**〔中期計画番号 4〕

異分野融合研究を目指す本所若手研究者が、同じく異分野融合の新研究分野の世界トップレベル若手研究者の養成を目指す学際高等研究教育院の院生らと合同で開催する「全領域合同研究交流会」を平成 29 年度に 8 回、ジョイントワークショップ 1 回を実施した。

**5. 若手研究者が企画・運営する多様な研究会・セミナーの実施**〔中期計画番号 36〕

「大西卓哉宇宙飛行士ミッション報告会」、「先史文化進化の展望：考古学から行動実験まで」、「On Steering the AI」、「大学院生と研究者のためのデザイン寺子屋」、「模型世界—探求するかたちの蒐集—」、「フロンティアバイオイメージング研究会」等、種々の分野とその融合を目指した公開の研究会、ワークショップ・セミナー等を主に若手研究者が企画、主催する形式で 24 回開催した。